

■エジプト：国内初の原子力発電所建設、年明けに国際入札

エジプト電力省は2013年11月14日、国内初となる原子力発電所の建設に向け、来年1月に国際入札を実施するとロシアとの協力協議の前に明らかにした。エジプトは、1986年のチェルノブイリ事故後に原子力開発計画を一旦凍結したが、2006年に復活させた。ムバラク大統領が解任された2011年2月には、この入札が計画されていた。同省の広報担当者は、「原子力発電所機関（Nuclear Power Plants Authority）は、地中海近くのDabaa地点に計画されている出力95万～165万kWの加圧水型原子炉2基の建設について、1回目の国際入札を計画している」と述べた。同国は、政情不安から経済活動が停滞しているが、モルシ前大統領が追放されたことから、クウェート、サウジアラビア、アラブ首長国連邦から建設資金として120億ドルを提供したいという申し出があるという。